

第22回 第5分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年5月8日 午後7時00分～午後10時40分	記録者	【学生補助員】 渡辺・宮本
		責任者	区事務局(松浦・池田)
<p>会議出席者：22名 (区民委員：15名 学識委員：2名 区職員：5名)</p>			
<p>配付資料</p> <p>第21回会議録 提言素案 第2回提言ワーキンググループまとめ</p> <p>進行内容</p> <p>1 はじめに 2 学識委員より 3 提言素案の検討 4 まとめ 5 事務連絡</p> <p>会議内容</p> <p>【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員</p> <p>1 はじめに</p> <p>: 配付資料の確認(3点)</p> <p>配付資料 「提言素案」は各執筆グループに作成していただいた原稿です。配付資料「第2回提言ワーキンググループまとめ」は4月28日に行われた会議の報告です。本日の進め方ですが、まず廣江先生、橋本先生にお話しいただきます。次に、提言素案について、検討します。始めに15分程度、原稿を読む時間を取り、それぞれの中項目ごとに執筆グループのリーダーより説明を受けて、全員で検討していただきます。最後にまとめ、事務連絡になります。それぞれの中項目ごとに順番に検討していただきたいと思います。本日、検討していただきました原稿は、5月14日に編集部会がありますので、編集委員の方にお送りします。本日、修正、手直しなどが出たものにつきましては、再度、事務局に提出していただきます。前回の編集部会では、中項目の題名の確認だけでしたので、今回はその内容を確認しながら、大項目、中項目の枠組みを再度、検討することになります。そのため、中項目の内容を把握する意味</p>			

で、原稿を提出することになります。この段階で、原稿が確定するというものではありません。また、今後のスケジュールですが、5月14日に世話人会、編集部会があります。その話を受けまして、5月15日に分科会があります。この時点で、提言素案をある程度まとめていただきます。5月19日が原稿の締め切りになりますので、それまでにほぼ確定していただくことになります。5月22日に世話会の委員全員に第1から第6分科会の原稿をお配りして、全体を見ていただき、編集部会を経て、6月5日で検討します。そこで最終調整して、提言の確定になります。本日は、5月14日の編集部会への提出に向けての検討ということでお願いします。また、5月19日の原稿締め切りまで、約2週間というかなりきつい日程ですが、今まで検討し、作成していただいたものをベースに調整または検討していただきたいと思います。では、橋本先生よりお話をお願いします。

2 学識委員より

- : 実際の執筆活動に入り、作業はかなり厳しい状況ですが、皆さんのお力を借りることになります。また、皆さんの執筆につきましては廣江先生から意見、助言が出ているようですが、あくまでこうなさいという事ではなく、こうした方がよりベターということ、こうした方が形になりやすいということですので、必ずしも100%そうしなければいけないということではありません。まずそこを確認しておきたいと思います。また、皆さんの原稿を後日、編集部会が確認しますので、あくまでも方向性を確認するのが本日すべきことかなと思います。14日の編集部会にけるための原稿の確認が今回の重要なポイントです。私は各執筆グループの方に書いていただいた原稿を見ました。小項目までまとまっていないものもありますが、話し合った成果がよく組み込まれているなという印象があります。ただこれからの懸念としてひとつの読み物としてどう仕上げていくのが今後の山場になっていくだろうと思います。今日はまずお手元の資料を見て、ここにはこういうことを入れて欲しいといったことを皆さんと一緒に確認していく大事な作業になります。

3 提言素案の検討

- : では、提言素案の検討に入ります。皆さんの提言素案について、事前に廣江先生からコメントをいただいていますので、それに関連して、廣江先生からお話をお願いします。
- : 私が書きましたのは一つの参考ということで、いろいろな視点から見た時に、私はそれでもこう言いたいといったものなど、足りないところがあるかもしれません。皆さんお考えいただき、判断していただければと思います。いろいろな考え方があります

が、私はどういうふうな新宿を残したいかという迫力だと思います。これからの新宿を作る時にそれがどういう姿であるか、今からどうするのか、それから誰がやるか、行政にこうすべきだとか、区民にこうすべきだと言うのか、区民の中でも誰の視点か、生活者の視点なのか、生産者の視点なのかというのは全部違うわけです。そういうものが出てくれば、今までの内容がより明らかになります。ぜひ、こうしたいという提言を作って欲しいと思います。

- : 時間も限られていますので、一つの中項目は20分程度でお願いします。各執筆グループのリーダーから、作成の経緯、視点などを簡単に説明していただいて、皆さんで検討して下さい。

(5つの中項目ごとに、提言素案を全員で、検討、討議)

- : では、「新しい才能、文化を常に吸収し続けるまち」について、お願いします。
- : 小項目まで手がまわらずに、十分に作りこめませんでした。第3分科会の意見として、文化創造都市という言葉に配慮した結果、今まで話し合った内容から少し逸脱している所もあるかもしれません。誰が何をしてそれをどう組み合わせたかについて配慮しながら書いたつもりです。現状と課題などで芸術ジャンルに特化したきらいがあるのでそこをどう考えるのかという点が問題で、焦点距離が絞りがきれていないように感じています。
- : 新しい才能・文化は「新しい才能と文化」ではなく「新しい才能と新しい文化」ですよ。ご承知のように普通新しいものというと少数派で異端ですよ。新宿区の包容力は何かと考えた時に異端に見える人を受け入れる能力とチャンスがあるまちだということが多分ここで書かれている目指すべき方向だということですよ。それをあまりコンテンツ産業とかIT産業とかに限定してしまうと10年後20年後に成長産業であるか全く分かりませんし、一つの例としてあげるべきです。むしろ大切なのは今は異端かもしれないけど、そういったものが育っていくところであるとか、あるいは育てた人たちが帰ってくるようにどう仕掛けていくか、といったことがあってもいいかもしれません。もう一つは、人間が成長していく中で、どの段階の文化を大切にしていくかということです。フィンランドでは小学生が音楽をやっていたり絵を描いていたります。そして高学年になるにつれて技術的なものを学びます。それは人間が才能を伸ばす時にそれが非常に重要になるからです。そしてその中から起業する人間が生まれます。そこで一番考えていただきたいのは文化の香りあふれるまちと言うのはどういったまちか。同じようなことは豊島区でもいわれていますが私のゼミの学生は「ただ施設の中で消費しているだけでなんら文化の生産をしていないじゃないか」と言っています。だからそうではなくあらゆるレベルでの生産活動とそれに対する包容力のある形でまとめられるといいなと思います。区民委員の方から学んだこと

で文化と文化行政は違うのです。

- : 場と場を生かす仕掛けも必要です。評価できる人間が必要なのです。それは非常に高いレベルの評価をする人も必要だけれども、区民がそれぞれ受け入れて自分のレベルで評価するという文化が大切です。なぜなら消費者は生産者の生産物を評価しなくてはなりません。そういう意味では消費者が高い能力を持っている必要があります。その点はキッチリ書かなくてはなりません。プロにならなくてもいいけど、楽しみながら評価しなければなりません。
- : もっと頭の中に広がる妄想の部分を具体的に取り込んだほうがよりインパクトのある第5分科会らしさ、新宿らしさのあるものになるのではないのでしょうか。
- : もっと自信を持っていいと思います。今までPRや自覚が足りなかったところが改善されてきていると思いますから。
- : 今までの議論も踏まえまして、次回の分科会までにまとめてください。では、「本物へのこだわりあるまち」について、お願いします。
- : はじめにお断りしますが、個々の事例は小項目に含めて書くべきことでした。また、フォーマットの制約上、文章をだいぶ短くしています。また第3分科会からの原稿を手直しせずに入れて欲しいということで、第3分科会のものを載せると第5分科会のスペースが少なくなるということもありました。
- : 第3分科会に関しては都市づくりで、箱があれば人が集まる、人が集まれば文化が出来るといった発想で本当にハード中心のもので出来上がっていると思います。それはこの文章にいたるまで前段階が二つくらいあるのだと思います。都市計画としての街づくりをどうするか、そしてそれをどう具体的にやっていくかが前提になっているのではないかと思いました。私が第5分科会として申し上げたのはソフトウェアとしての文化・産業という視点の違いが重要で、土地の記憶と再生と言うテーマにそれはよく象徴されています。扱うものは全く同じでもそれを第5分科会的な視点に変えていくという要素が必要で小項目に関してはあまり変える必要がないと思います。むしろ第5分科会がやらなくてはならないことは、ソフトウェアとしてどう扱っていくのかという視点で書き上げればいいのかと思います。その視点さえあればこの素材は生かせると思うので、逆にこの素材をどう生かせば第5分科会的な発想から中項目、大項目につながられるのかということです。
- : 今は読みやすいものを提出して行こうと決まったのでそこに異論はありません。
- : 第5分科会のカラーを出していきましょう。
- : 中間発表会は分科会ごとの報告でしたが、今回は、区民会議として、ひとつの提言にすることで分科会ごとの提言はやめようということになりました。現在の大項目は、中項目の題名だけである程度くくっていますが、提出された原稿の内容によって、くくり方を再編することもあります。そのために今まとめの作業をしているということでご理解いただければと思います。

- : 本物へのこだわりのあるまちには本物を作り出す人と本物を受け止める人の両方がいなくてはなりません。新宿はそういうまちになろうとしているのだと思います。今はそのどちらかしかありません。
- : 次は「道草のしたくなる楽しいまち」について、よろしくをお願いします。
- : 将来あるべき姿の書き方は「こうなっています。」という言い切りの形に統一しています。現状と課題については第4段落までが私がたたき台として書いた内容です。第5段落からはほぼ第3分科会の内容です。小項目については、前半が第5分科会、後半が第3分科会のものです。また、執筆に関して、第3分科会の執筆担当者と意見交換した際に、主に小項目を反映して、内容を充実させて欲しいとの意向がありましたのでそのまま掲載させていただきました。また、廣江先生から区民の視点から記述してはどうかというアドバイスをいただきましたので、その視点で書きました。最後に猥雑さという考え方ですがここで議論されてきたのは様々な考え方を認めていこうということですが、第3分科会の考え方と少し違いがでていたので、今回はとりあえず猥雑さといったものははずしてあるため、そこは皆さんに入れていただこうと考えております。
- : 分科会で検討してきたことは、個々の商店、産業、文化の全てを含めたものが観光だということを中間発表の時からやってきました。これが第5分科会の基本だと思うのです。
- : 妄想とかの部分が全てなくなっています。お役所的なものになってしまって20年後に何が見えるかという論点がなくなっています。妄想も蘊蓄もありません。
- : 第5分科会ではどういうふうにしていくのかという将来展望を見ているわけだから書くべきことは道草のしたくなる楽しいまちとはどういったものなのかということですね。必要なのは猥雑という言葉を使う必要はありませんが、いろいろなものが新宿区にはあって、お互いの異質性といったものを認め合うまちです。みんな均一にするわけではないといったことが大切だと思います。区民も他から来る人も違うものがあるから来るのであって、同じものを見にこようとは思いません。その違うものをどう生かしていくかということ、どうしたいかをもっときちんと書くべきだと思います。
- : 抽象的な言葉だと「再認識」、「再発見」ということではないでしょうか。ぜひ、具体論をしっかりと入れていただきたいですね。
- : 「道草をしたくなるようなまち」は新宿を代表する、特徴のある、提案できるということだと思います。特に「道草」は、単調ではないものがたくさんあるのでそれがフラットで統一されると道草ではなくなってしまうと思います。ハードを作るといい面も悪い面もありますが、あえて言えば逆に道草したい人にはつまらないことになってしまう可能性もあります。
- : 廣江先生からご指摘がありました「再発見」ということを盛り込むことが、今回の議論でどんなことがベースになるかが分かりましたので、入れていきたいと思っております。

- : 次に、「誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」についてお願いします。
- : どうしたらいいのか、どういう形でやっていけたらいいかなという感じなのですが、結論としては、10年後にはこのまちは変わっていくということです。去年、ある週刊誌で、一番危ないまちとして、新宿3丁目が出ていました。危ないところも、いいところも全部新宿区ということで、そういった魅力があるのだけれど危ないから行かないということが今の新宿のイメージなのですね。安心、安全のまちをどうしたら作れるのかということを考えて、自分の考えですが、「まちをきれいにしたらいいのではないのか」ということを盛り込んでみました。皆さんの意見があればぜひ教えてください。
- : 安心、安全での都市工学の議論は一義的なのですね。道路を広くしようというような。末端の議論をしたのは、新宿の魅力は先端だけではないだろうということなのですね。大きなビルもあれば小さな商店もあるということは、火災の危険を引き起こすかもしれない。確かに、普通では考えづらいということなのですね。それらを共存することの意味を問い直すことが第5分科会の想いなのですよ。安全を持っていかねばならないところはあるけれど、ある程度、自己責任なのですよ。私は新宿区を持っている多様性って言うものを重視したいですし、世界的に見れば、非常に安全で、住みやすいまちだと思います。
- : また、新宿区は非常に庶民的なまちなのですよ。そこが新宿のよさであり、違いだと思います。
- : 商店街については、客観的に書くよりは、個々のお店の努力がないとだめだろうということと、個人の取り組みだけでは難しいので、周辺の商店が協力しなければならないということを考えて書きました。もうひとつ書きたかったのは、新宿にあることのメリットを重視したかったということです。本当ならば、零細商店はすぐにつぶれてしまうはずなのに、それが生き残っているということ考えた上での新宿にあることのメリットから、もう少し、ここを生かすとできるのだよということ盛り込んだ文章にしていきたいと思って書きました。そして、取り組みの方向性の最後で、商店街やお店を応援するのは、行政のやることではないということ盛り込みました。しかし、路地裏が生き残るといったような政策をなんとかできればなという思いも込めて、最後の文章を書きました。
- : 多分こういうことだと思うのですが、どういうことをやるのかということ区は重視すると思うのです。これは新宿区に限らず、どういうふうにしたいのかということが評価されるのだと思います。だから、重要なのは、どういうふうにしていきたいのかということをはっきり示すことだと思います。従来のようにお金をばら撒くことはやめましょうというようなスタンスに変わったということだと思うのです。
- : 今の新宿とどう違うのかを示すことが将来のあるべき姿だと思いますので、よその都市では見ない個人商店と大きな店舗と混在している摩訶不思議のまちといったよう

な描き方をするほうがいいのではないのかと思います。この描き方では、現在の新宿区といったようなものになってしまうので、これからの新宿区では、商店街ごとに色合いがあったりとか、まれな店があったり、経営者に個性があったりといったような書き方をするのがいいのではないのかと思います。

- : ワンルームマンションが建ってしまい、商店街として成立しなくなってしまうといった問題点を前におっしゃっていました。経済効率だけで考えるとすれば、商店街が寸断されてしまって、風景が変わり魅力がなくなることが現在の問題と課題だと思います。商店街をどういうふう守っていくかということが、区民にとっても行政にとっても重要な問題だと思います。そのような問題をどのように改善していくかということまで盛り込んでいってもいいと思います。このままでは商店街がつぶれてしまうということを強く訴えた上で、先端と末端を共存させるには、個人の努力だけではどうしようもないけども、個人商店は必要だということを盛り込んでいけばいいと思います。
- : 先端と末端という言葉のニュアンスで皆さん違う議論になってしまうのではないのでしょうか。
- : ささまざまなレベルがあると思うのです。外国のものがあれば伝統的なものもあるし、新しいものもあれば古いものもある。自分が先端と思えば、先端、末端と思えば末端だと思うのですよね。
- : それが共存にならなければならないのですよね。末端がつぶれてしまうものではないと思うのです。末端にいても光っているということもあると思います。ただ、なくなってしまうということを出しすぎるということでもないと思います。
- : 末端の面白さは実は末端ではないのですね。違う光を当てると先端になるかもしれないという面白さだと思います。
- : では、最後に「知のネットワーク」についてお願いします。案1と2と二通り提案出しています。
- : 案1は、私がまとめたものを、他の方の意見も伺ってから修正いたしました。私が図書館に入れ込んでいたものですから、情報や情報センターについても入れ直して、案を出しました。
- : 案2は、一度、先生にメールを送りアドバイスをいただいたものをふまえて作成しました。「知のネットワーク」は全てに関わっているということでしたので、それらを自分なりに検討しまとめました。将来あるべき姿を出し、具体的な構想として、図書館の再構築を取り上げて、個々のネットの拠点として中央図書館があったらいいし、将来的には、ここをビジネスや交流の拠点にできればいいと思っています。この分科会で、まとめたところは道草をしたくなる楽しいまちということなので、そこは残しておいて、ユビキタスを入れ込み、将来の構想ということで、先生の言葉をいただいて、新宿の原動力という言葉を入れておきました。

- 現状に関しては、今の現状をしっかりと伝えて、そのためにはプロが必要ということから、プロを作り上げるということを含めました。
- : 最終的には、案1は他の委員の方の案も入れて編集し仕上げたという事ですか。
 - : はい。なるべく盛り込み、案1を完成させていきました。図書館は情報の中心になっていくということを書きました。図書館がキーステーションになるためにはということで書いてみて、カタカナはなるべく少なくして、かっこ書きで掲載しまして、皆様に入れていただくかということをお願いしたい事と、最後の取り組みの方向性として、ビジネス支援ということが余り知られていないということですので、いろいろな場所の事例を紹介していければと思いました。
 - : 消費者生活センターも、安心な信頼のおける情報ツールという事がありますので、ここに盛り込んでいただきたいと思います。今、消費者センターは情報の受信はできて発信はできていないという問題がありますので、区民の目線で情報加工をして発信していくということを含んでほしいと思います。ビジネス支援もきちんと担うという発想をしてほしいと思います。
 - : わかりやすく言うと、今までの4つの中項目について、誰がやるのかというと、区民がやることだと思うのですよね。区民が力をつけなければいけない、では、どこで力をつけるかというと、そういう拠点も必要だと思います。どういうものをよりどこにしていくのかということが、それをどこにするかということなのですよね。
 - : 消費者生活センターで、区民の視点で情報を得ることが、案には盛り込まれていると思います。
 - : 情報を誰がどういうふうにして誰が発信していくのかという問題が残っています。図書館を知らない人が考えているイメージの中では、図書館を前面に押し出すならば、しっかりと情報の拠点ということを押し出していけないかなと思います。
 - : 情報がストレートに図書館でということではなく、コンテンツ産業のネットと地域の関連は入らないのですか？
 - : そういうものはありますが、なぜ図書館というと、誰でも入れる、敷居が低いということで、一番キーステーションになりうるのではないかと。また今の図書館の情報は点であって線になっていないので、それを改善していけば、非常に有効な手段になりうるのではないかと考えています。
 - : 情報全体の捉え方として、盛り込まれるとわかりやすいのですが、図書館問題として捉えてしまいかねないと、文字面だけではやはり思っています。
 - : 将来のあるべき姿で、図書館を使いこなせる区民になろうという形にして、そのことで情報センターになっていくという形にすればいいのではないかと思います。
 - : 区民参加のプロ集団というふうに書いていますが、それに見合うだけの再構築をし、区民の目線で発信できなければならぬと思います。そうすれば、すごく広がると思

います。

- : 「図書館司書」を書き込むと、どうしても従来の図書館のイメージになってしまいますので、どうかそれを壊していただきたいですね。優秀な文化の担い手としてプロを作っていかなければなりませんね。
- : そういうことも盛り込みつつ、図書館の事も書かなければいけないし、知のネットワークとしてまとめなければならぬということ非常に難しいと思います。
- : 今までの図書館ではないですよ、ということをしかりと打ち出したほうがメリットになるし、新しい図書館像だと思います。もっと大きな観点で第5分科会らしさを伝えていったほうが良いと思います。
- : アメリカの図書館では、日本からパソコンでアクセスして書籍が読めるということが出来ますよね。そういった仕組みを考えているのです。新宿区はまだできないのですね。
- : しかし、そういった仕組みができていないので不可能なんですよ。
- : ITをある程度駆使できないと、新しい図書館は楽しめないということですね。
- : ITは区民もレベルアップしていかなければできないということなのですよ。
- : ただ、そういったことを書くよりも、こういうふうになるよということを書く事が重要なのかと思います。区民から頑張って下さいという事を言って欲しいですね。そして、今、費用対効果を数字で出しているのは、はっきり言ってつぶしにかかっているということの表れなのだと思います。そういったことの反対という立場をここで伝えておくべきなのだと思います。そして、そういったカタカナの用語もぜひ覚えてほしいということからあえてカタカナを使いました。
- : カタカナは、なるべく使わないほうが良いのではないのでしょうか？
- : 「デジタルディバイド」にしても、もう一度読み返してほしいという観点からあえてカタカナも加えてみたのですが。
- : 知のネットワークということで話し合ってもらったのですが、皆さんも言っていましたように、少し図書館に特化しているような気がします。本来の意図が伝わってなくて、前段階のことは、むしろ、案2の前半部分のほうが伝わりやすいような気がします。「情報」に関しては、第5分科会しか扱っているところがないので、図書館のことはぜひ触れるべきだと思います。ただ、入れ方としましては、いくつかの小項目の中に入れるという形にしたほうが、流れとしてもよいという感じは印象としてあります。考え方として、ネットワークというくくりは非常に大きいと思うので、案1と案2を中項目にしたいと思うのですが、他の分科会でもそれはできませんので、情報という大きなくくりで捉えてから、小項目で図書館のことに触れるほうが良いと思います。その際に、図書館や、司書といったような言葉はできるだけ減らしていくことがよろしいかと思います。そうすれば、第5分科会で話し合ったことが生かされるのではないのでしょうか。

- : いろいろご意見はありますが、提言にまとめていかなければいけないので、皆さん、今の意見を反映させて、第5分科会らしい文章を盛り込んでいくということでよろしくをお願いします。

4 まとめ

- : 本日は話し合われたことを踏まえて、次回の分科会までに手直ししていただき、5月14日までに事務局に送ってください。各執筆グループでリーダーを中心に相談して下さい。次回分科会で再度、検討していただいて、ほぼ確定させたいのでよろしくお願いします。では、先生からまとめをお願いします。
- : 最後の「知のネットワーク」は、以前も出ていたように図書館についてイメージが皆違うと思いますので、どうイメージをどう打ち破るかということが重要だと思います。新宿区は異質なものが存在するといってきました。それが集まる場がネットワークだと思います。そういった話し合いの中で、この文章を議論していない人が読んだら、図書館のことだけかと思ってしまいます。そうではないことをどう言葉に表すかということだと思います。もうひとつ大事なものは、情報を担う人がいます。価値をつける人がいます。人が集まる場所としての情報ネットワークということを書いているのはわかりますが、ちょっと違うものになってしまっています。そういう「人としての集まる場」でのふれあいの仕掛けがあったときに新しいことができるかもしれません。そういう交流は、あるものを加工するのではなく、新しいものを作っていくものだと思います。そういうところをもうひと工夫することを盛り込むといいと思います。

5 事務連絡

* 次回の分科会

- ・ 5月15日(月) 午後7時～午後9時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

以上